

自分ごと化会議 in 松江からの 9つの提案

～原発を自分ごと化する～



2019年3月14日

「自分ごと化会議 in 松江」 会議参加者一同

～ はじめに ～

私たちは2018年11月から2019年2月まで4回にわたって、「自分ごと化会議 in 松江」で原発について話し合いました。

議論の過程では、原子力リスクマネジメントの専門家、中国電力の担当者、原発推進・脱原発それぞれの活動に取り組む人たちの話を聞き、原発の見学も行いました。

それまで見ず知らずで、仕事も年齢も、原発に対する考えも互いに知らない26名の松江市民は、最初はおそろおそろ、しかし延べ約20時間を共有する中で、やがて和気あいあいと、あるいは熱く語り合うことができました。

この会議は原発推進か、脱原発か、どちらが正しいかを議論したのではありません。原発について話し合いを重ねるにつれて、原発を議論するということは、私たちのエネルギーの使い方、暮らし方、生活のあり様そのものを考えることだと思えるようになってきました。

こうした対話によってこそ、多くの人が納得できる出口が見つかるのではないのでしょうか。

この対話の過程で、私たちはいくつかの基本的な事柄を共有することができました。

- 原発は他人事ではなく「自分ごと」であること。そして「自分ごと」にする人が多ければ多いほど、大勢の人が納得する解決策が見えてくる。
- メリット、デメリットは大事だが、そこに留まらず、どんな暮らしを自分たち（子や孫の世代を含め）はしたいのか、松江をどんなまちにしたいか、まで思いを巡らすことが必要だ。
- そのためにも原発の経済効果、廃棄物処理や将来の廃炉コスト、事故対応、代替エネルギーの可能性、それらの背景にある国のエネルギー政策などについて、常に行政も、企業も、情報を市民に積極的に提供し、説明して欲しい。そこに、行政や企業と市民の間の「信頼」が生まれる。

原発についてどちらかと言えば他人事だった私たちにとって、この4か月は大変充実し、面白く、楽しくさえある時間でした。行政や企業とも協力して、私たちは、さらに多くの松江市民が「自分ごと」にしてもらえるよう「何か」をしたい。その「何か」がつながって行けば、膠着している原発問題に動きが出てくると信じています。

そして、この「動き」が松江から日本中に広がれば・・・次の、さらにその次の世代に、きっと感謝してもらえらると思うのです。

こんな思いで私たちはこの提案をまとめました。

なお、「松江市だけでなく、島根原発が稼働した際の電力供給先となる他県の人たちにも、“自分たちはどう暮らしたいのか、どんなまちであってほしいのか”に思いを巡らせながら、原発のあり方について考えて欲しい」という意見もあったことを付け加えます。

また、自分ごと化会議の空気を私たちと共有した延べ 280 名の傍聴者からも、熱い「声」を頂きました。その一部をご紹介します。

- 「安心して話せる場づくり」がとても大切ですね。このスタイルが色んな場で定着すると嬉しいです。
- このような場が現実に可能だとは、思わなかった。参加者がきちんと集まっただけで、驚きで、民主主義の可能性を感じた。
- 自分ごと化は学びに向かう！対話の深まりに向かう、すごい！
- 自分自身も会議に参加したような気持ちになり、自分のこととして考えられました。
- 熟議の政治が可能だと知ることができた。
- 1人ひとりが大切にされている空間だった。
- 自由な発想のもとになんでもありの会議は素晴らしいです。だれが正しいかではなくて、どうしたら幸せと感じる生活ができるかを考えるのは、まさに私自身の望むところです。
- 多様な立場の人の意見が出る。声を出していないだけで、考えていることはたくさんあることが可視化されてすごい。
- 隠れた光をどんどん見出してください。
- マスコミで聴く内容以外の話が聞けた。賛成、反対の二項対立でない会議の場がよかった。
- この実験をどうやって全市民的、全県民的、全国民的に広げるのか、そのアイデアと運動を考えなくてはならないと思いました。
- 「ただ考える」だけなら誰でもできるが、発案したり意見を交換したり、それらをまとめて提案書として上げていく、という「行動」に移せる場を設けられたことは大変意義あることだと思う。
- 「市民がすごい！」この力を生かした社会づくりに繋がりますように。

以下の9つの提案は、私たち会議参加者が、4回にわたって議論してきたことや、各回で記載した「改善提案シート」の内容を中心にまとめたものです。

提案

1. 原発を「誰かが考える問題」ではなく「自分の問題」として、多くの人が関心を持つようにする。

提案

2. 「自分たち（子や孫も含めて）はどう暮らしたいのか、松江市はどんなまちであってほしいか」に思いを巡らして原発のあり方を考える。

提案

3. 島根原発の見学など、市民が分かりやすい原発の情報に触れる機会を増やし、一人一人が判断しやすい環境をつくる。

提案

4. 原発によって松江市にどの程度の経済効果があるのか、具体的に検証して市民目線で考える。

提案

5. 自分たちの生活の中で、エネルギーの使い方を見つめ直し、無駄をなくす。

提案

6. エネルギー源の一層の多様化や、地域循環型の電力システム（エネルギーの地産地消）に向けて研究し、その成果を市民へ知らせる。

提案

7. 放射性廃棄物の最終処分場について、情報の出し手（国や電力会社）と受け手（市民）のコミュニケーションを図り、他人事にならないようにする。

提案

8. 仮に原発事故が起きた場合の被害シミュレーションや、避難計画・経路の周知を今まで以上に徹底する。私たち市民も知る努力をする。

提案

9. この会議での私たちの意見と、議会・行政の考えとの共通点や相違点を知るため、市議会を傍聴したり国のエネルギー政策の動向をチェックしたりする。議会・行政は多様な市民の意見を真剣に聴く。

提案

1. 原発を「誰かが考える問題」ではなく「自分の問題」として、多くの人が関心を持つようにする。

原発に関心を持っている人は賛成か反対かの意思が明確な人に限られることが多く、それ以外の多くの市民は原発に関心を持ちにくい。原発への「賛否」の意思を持つことだけが関心を持つことではない。より多くの市民が原発の現状、自分たちの生活との関わりを知り、考え、自然体で対話できる時間を増やしたい。

「会議としての共通意見」 「提案1」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち市民

- ① 原発を自分の問題として本気で考え、知る努力をする。その結果を他の人に話してみる。
- ② 原発についての情報を自ら得るように努める。
- ③ 周囲の人（家族・友人・知人）と原発を話題にする。
- ④ 「理屈を言うと嫌われる」という雰囲気があるので、それを変えていく。
- ⑤ 偏見を捨てて、意見が違っても会話をしていく。
- ⑥ 「原発の話をするのはやめておいた方が良くないかな」などの余計な心配はやめる。

中国電力

- ① 専門的な話ばかりだと難しくなってしまうので、できるだけ興味を引く工夫をして説明する。

民間企業、NPO等

- ① 自分たちの活動や仕事とエネルギーとの関係を話し合ってみる。
- ② 再生可能エネルギー（太陽光・風力・水力・地熱など）の推進を本気で考える。

行政

- ① 【市】 今回の「自分ごと化会議」のように、無作為で選ばれた人たちによって自由に話し合える機会を作り、広く情報を公開する。
- ② 【市】 学校でエネルギー問題について考える時間を設ける（時に、子どもの素直な意見にハッとさせられることがある）。

「個別の意見」

- ① 若い人は知らないと考えず、どんどん意見を聞いてみる。
- ② 中国電力は、3号機を廃炉にする勇気を持つ（決定を国民に委ねてみては?）。
- ③ 別のメンバーを無作為に選び、市民主催の自分ごと化会議 2020（仮）を実施する。

- 「自分たち（子や孫も含めて）はどう暮らしたいのか、松江市は
 2. どんなまちであってほしいか」に思いを巡らして原発のあり方を考える。

原発は「特別なもの」「難しいもの」「触れない方がいいもの」だと思っていたが、理解するにつれて、原発を考えるということは生活そのもの考えることだとわかった。だから、市や県や国に任せるのではなく、私たち自身で考える必要がある。

私たちが考えたとしても社会が別の要因で動いてしまうことはよくあるが、まずは、自分を起点にして、その延長線上で松江市、島根県、国、社会を考えられるようにしたい。

《会議としての共通意見》「提案2」の実現に向けて、**それぞれが行うこと**

私たち市民

- ① 自分自身がどのような社会にしたいのか、子どもにどんな社会で生きてほしいか、将来を想像する
- ② 子ども、孫、その先の命へつなぐために、自分自身の今を見直し、行動する決意を持つ。
- ③ 原発と生活のかかわりや、自分の使っているエネルギーはどこから得られているのか、きちんと知る。
- ④ 行政を頼りにするのではなく、まず自分たちで何ができるのかを考えてみる。
- ⑤ 地域の人たちと松江の将来を話し合ってみる。
- ⑥ 原発がなくなった時の松江の産業政策のあり方について、市民の立場で勉強会をする。

中国電力

- ① 中国電力対市民（私達）ではないと思う。中国電力も市民と一緒に考える。
- ② 原発があることで地域がどのような恩恵を受け、どのようなリスクを背負っているのか、今よりもわかりやすく市民に伝える。
- ③ 電気代や原発の安全性だけでなく、中国電力が原発をやめた時に地域や社会に与える影響について市民に伝える。
- ④ 洪水対策を兼ねた小水力発電で地域に貢献する。
- ⑤ 原発以外の新しい技術の開発を進める。
- ⑥ 原発をなくした場合の経営も考える。
- ⑦ 国の政策に従うだけでなく、市民（消費者）である社員の家族の本音を聞いてみる。

民間企業、 NPO 等

- ① 電力会社以外の地域振興を考える（農業・漁業や工業など）。
- ② 原発や中国電力と関わりのある企業や団体が自らの考えを発信する。
- ③ 【メディア】世界の動向について報道する。

行政

- ① 【市】多面的な産業振興を進めながら、原発をやめても今まで行っていたことができるのかを試算する。
- ② 【市】学校などで子ども達にも考えてもらえる場を作る。
- ③ 【市・県】分かりやすい広報活動を積極的に行う（市・県の広報紙など）。
- ④ 【国】再生可能エネルギーの開発や廃炉などへより積極的に投資する（助成金を出す）。それに伴って企業が動くのではないか。

《個別の意見》

- ① 自分自身にとっては、想像できるのは最高 30 年であるが、未来を考えることは必要。
- ② 50 年前は不便であっても不幸ではなかった。50 年先に仮に不便になったとしても、不幸になりたくない。
- ③ 今回の“自分ごと化会議”で、便利な生活を失うことには勇気と覚悟が必要であると、いよいよ実感を持った。
- ④ 企業は、省エネの視点で 24 時間営業や正月営業をやめてみる（子どもの頃はそうだった）。働き方改革にもつながる。
- ⑤ 市、県、国それぞれの規模で、必要な電力量を計算した上で必要性を考える。
- ⑥ 市、県はどうしても国の方針に従わなければならないか。
- ⑦ 市、県は経済が冷え込まないように原発のない土地として企業誘致する。
- ⑧ 発電所の跡地利用について考える。
- ⑨ 原発がなくなると、原発によって仕事を得ていた人たちの職が不安定になってしまう。
- ⑩ 電気料金の安い会社を選ぶことを考える。
- ⑪ 地域の会合で、今後どれくらい企業に AI を導入していくのか話し合う。
- ⑫ 現在、開発されている技術を調べる。
- ⑬ 市、県はしっかりと責任を持つ。技術開発の情報を開示する（知的財産権の保証が必要）。
- ⑭ 人口増加に向けて、グローバルな学校（例えば、英語で授業を行う学校など）を作り、各国から子どもを受け入れる。遊園地を作る。
- ⑮ 選挙の結果を、原発に対しての考え方など角度を変えて見てみる。
- ⑯ マスコミは今よりも公平に報道してほしい。
- ⑰ 若いも若きも、全ての年代の方達と共に話し合える場があるとよい。

提案

3. 島根原発の見学など、市民が分かりやすい原発の情報に触れる機会を増やし、一人一人が判断しやすい環境をつくる。

今回、島根原発を見学したことによって、見方が変わったり原発についてより深く考えられるようになったりした人が増えた。十分な知識や情報が、自分ごとになるうえでとても大切だと再認識した。原発の必要性の判断をするにあたっては、正確かつ十分な情報に触れることが不可欠なので、情報を出す側（行政や中国電力）と受ける側（市民）双方がさらに努力をする。

《会議としての共通意見》「提案3」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち市民

- ① 一方の考えのみで判断するのではなく、原発について様々な立場の意見や、原発の実情について知った上で、自分の考えを整理する。
- ② 自分ごと化会議のように知識を共有したり、意見交換したりする場を作る。
- ③ 福島や世界の原発事故のその後について、自分なりに調べた上で、再度、原発のメリットやデメリットを考える。
- ④ 見学してきた人が、施設を知らない人に見学内容を積極的に伝える。
- ⑤ 地域の様々な団体や集まりの中で、原発見学の重要性について広めていく。
- ⑥ 原発を輸出する企業がある現実を知る。

中国電力

- ① 3号機が動いていない今こそ、原発の仕組みの公開にもっと活用する。
- ② 島根原発の見学会をより広く呼びかけて多くの人に来てもらうようにする。
- ③ 住民説明会等での説明は、今回の自分ごと化会議での中国電力のお話のようにわかりやすくしていく。
- ④ 市民が情報を得やすくするため、ポータルサイトを作成するなど、わかりやすく伝えることにさらに注力する。
- ⑤ コストの面など不明瞭な部分を公開するとともに、第3者委員会など市民の意見を受け入れる組織づくりをする。

民間企業、NPO等

- ① 【メディア】一方の考えに偏った報道だけでなく、冷静で多様な意見を今以上に積極的に報道する。
- ② 水力・風力など他の発電のリスクについても、具体的なデータを基に検討を行う。

- ① 【市】市民と行政が一緒になって考える場を作るなどして、行政が持つ情報を市民に積極的に提供する。
- ② 【市・県】原発が所在する自治体の首長は、原発があることでどういった益・不益があるかを住民に説明する。
- ③ 【市・県】中国電力と協議しながら原発見学会を開催し多くの人に参加してもらう。
- ④ 【県・国】原発稼働の可否を判断するため、利用可能なエネルギーについて各々のリスクを検討し、市民に知らせる。
- ⑤ 原発稼働に伴う責任や管理体制の明確化、見える化を行う。
- ⑥ 原発ありきではなく、原発以外のエネルギーのみでの電力供給も本気で考え、比較検討できる情報を市民へ提供する。
- ⑦ 【市・県】学校（小・中学校、高校）の遠足や課外授業などで、島根原発の見学を行う。

行政

«個別の意見»

- ① 行政が原発に関する情報を発信するための中核を担う。
- ② 宣伝カーを走らせたり、議会、市役所、県庁の窓口で原発見学の重要性をもっとアピールする。
- ③ 自治会長が島根原発を見学したいと思えるような情報の伝え方を心掛ける。
- ④ 例えば、島根原発へ見学に行くバスの経費を行政や中国電力が助成するなどの方策を検討する。
- ⑤ 廃炉の研究成果について、行政は随時国民・住民に向けて説明を行う。
- ⑥ 中国電力としても原発のリスクをより積極的に伝えていく。
- ⑦ 広告もそうだが、テレビ番組も作成して、時間帯を同じくして一斉に流す。
- ⑧ 温暖化についても考えなければいけない。地域は温暖化について考える場を設ける。中国電力は、化石燃料と原子力のCO2排出量を個人に伝えてもらう。新聞・メディアは代替エネルギーを報道し、温暖化による気温上昇をPRしてほしい。行政は、この会議の意見を検討していただきたい。
- ⑨ 地区ごとに自分ごと化会議を開く。
- ⑩ 市民が判断しやすい環境を作るためには、誠意を中国電力と行政が示し信用を得て、不安を拭わなければならない（例えば、学校単位の島根原発の見学は、きっと反対する保護者が出てくるのが予想される）。

提案

4. 原発によって松江市にどの程度の経済効果があるのか、具体的に検証して市民目線で考える。

松江市における原発の経済効果について、この会議では明らかにならなかった。行政にとってのメリット（電源立地交付金、年間約 23 億円）だけでなく、松江市の経済全体に対する効果、自分たちの暮らしにどんな影響をもたらしているかを考える必要がある。

《会議としての共通意見》「提案4」の実現に向けて、それぞれが行うこと

	① 経済効果について部分的にでも知る努力をする。
私たち市民	② 地域で経済効果の勉強会を開く。 ③ 行政の活動にもっと関心を持つ。
中国電力	① 経済効果を算出し、そのデータを公表する。
民間企業、NPO 等	① メディアや民間調査機関は、経済効果が実際にどうなっているかを調査し、公表する。
行政	① 【市・県・国】原発の経済効果を分析し、公表する。

《個別の意見》

- ① 中国電力と行政は、一緒になって経済波及効果のアピールをもっとする。その際、国だけでなく市や県も、うやむやにすることなくデータをしっかりと市民、県民に示す。

5. 自分たちの生活の中で、エネルギーの使い方を見つめ直し、無駄をなくす。

エネルギーの供給方法がいずれであっても、省エネの観点が必要である。エネルギーの使い方は私たちの暮らし方そのものにつながっているため、今一度自分たちの生活のあり方を考え直してみる。

《会議としての共通意見》「提案5」の実現に向けて、**それぞれが行うこと**

- | | |
|-------------------|--|
| 私たち市民 | <ul style="list-style-type: none"> ① 省エネに対して理解を深め、実践できるようにする。電力消費を減らす努力をする。 ② アパートなどに住んでいて、個人で太陽光発電にできない場合でも、自分にできることを考える。 ③ ノーテレビ、ノーエアコンなど、様々な生活スタイルを家族と共に試してみる。 ④ アパート、公民館、ショッピングモールなどに太陽光発電の設置を働きかける。 ⑤ 大量消費の生活スタイルを考え直し、企業に意見を言う。 |
| 中国電力 | <ul style="list-style-type: none"> ① 最低限の電力供給量を正確に把握する。 |
| 民間企業、NPO 等 | <ul style="list-style-type: none"> ① 多くの人が使用できる自家発電機を開発する。 ② 働き手不足によるオートメーション化（設備投資）を行う場合に、再生可能エネルギーを用いて自家発電を設置する。 |
| 行政 | <ul style="list-style-type: none"> ① 省エネに対する意識を高めるような取り組みを、もっと力強く進める。 |

《個別の意見》

- ① 地味ながらも様々な分野の基盤となる「ローテク」によってエネルギー消費を節約する。
- ② 竹のエネルギー利用や竹材のチップ化の研究をする。
- ③ 中国電力は一度ギリギリの電力供給にしてみても、どのような不具合があるのか、どのように対応すべきかなどの訓練をすることはできないか。
- ④ 市民のエネルギー消費（市全体のエネルギー消費との比較やこれまでの動向など）について、優れたデザインやアニメーションを使って知らせることで、市民の認知度を上げていく。
- ⑤ 市は、省エネ DAY を作る（例、松江市の「全市一斉ライトダウンまつえ」は浸透していない）。

- エネルギー源の一層の多様化や、地域循環型の電力システム（エネルギーの地産地消）に向けて研究し、その成果を市民へ知らせる。

人口減少の時代には、エネルギーをはじめ社会の仕組みを、いかに小さくして質を高めるかが重要になる。太陽光や風力、水力など原子力以外の発電方法のメリットやデメリットについても、今回の会議のような場を設けて話し合ってはどうか。また、地域循環型の電力システムや蓄電技術なども、市民が身近に考えられる環境を整えたい。

「会議としての共通意見」 「提案6」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち市民

- ① 自ら知りたいことを調べる。知らないままにせず自ら行動する。
- ② 原発の代替案や再生可能エネルギーのメリットやデメリットについてもっと勉強する。
- ③ エネルギーの地産地消についてさらに勉強してみる。
- ④ 現実に沿って考えるためにも、多様でかつ正確な情報に基づき比較検討してみる。
- ⑤ 専門家が開催する勉強会に参加して理解を深める。
- ⑥ 地域でどのような再生可能エネルギーの設備を設置できるか考え、普及・活用を進める。
- ⑦ 今できる家庭内での電力の備蓄方法を考える。

中国電力

- ① 再生可能エネルギーへの参入も含めて、将来を見据えた新しい産業について考える。
- ② 島根原発を稼働（もしくは再稼働）させるかどうかだけでなく、中国電力内でも代替エネルギー産業や生き残っていくための方策を考える。
- ③ 行政機関・企業・大学等と協力して新しいエネルギーの開発を検討する。
- ④ 水力発電、木質チップ・ペレットによる火力発電への転換を真剣に考える。
- ⑤ 発電所の余ったエネルギーを蓄電するための仕組みを作る。

民間企業、 NPO 等

- ① 企業は存在している限り、電力消費は必須なので、企業自身が省エネ方法、どんなエネルギーを使うか真剣に考える。
- ② NPO などが自らの情報誌に、再生可能エネルギーの情報、原発を廃止するとしている国（ドイツ）など海外の情報を掲載する。メディアも海外の取組みを報道する。
- ③ 再生可能エネルギーの設備の設置及び廃棄にあたっては、自然環境に配慮していく。
- ④ 新しい技術の開発をめざす（軽量化、小型化、コストの削減）。
- ⑤ 企業が効率的な蓄電装置を開発する。
- ⑥ 地域の資源を使い、小水力など小規模発電に参入して地域の人を雇用する。
- ⑦ 【メディア】 様々な角度から多様な情報を提供する。一方的で偏った情報に基づく報道にならないよう努める。

行政

- ① 【市】 市単位での発電システムを研究する。
- ② 【市】 原発依存を分散することができるよう、発電システムについて市民勉強会を実施する。
- ③ 【市】 可燃ごみ、生ゴミ、廃油等を用いたバイオマス発電や木質バイオマス発電を推進する。
- ④ 【市・県】 再生可能エネルギーや地域循環型システムなどを学校で学ぶ機会を作る。
- ⑤ 【市・県】 学校など公共施設を省エネモデル建築にする。太陽光発電設備の設置を増やす。
- ⑥ 【国】 余剰エネルギーの備蓄技術開発の支援を行う。
- ⑦ 地域循環型の電力システムを具体化しようとする、予算、場所などどの程度であれば実現可能なかを算出する。
- ⑧ 【市】 新しい庁舎の消費電力を 100%再生可能エネルギーで補うことを目指し、そのための具体的な目標を持つ（20△〇年までに 50%など）。

《個別の意見》

- ① 国と中国電力は、(2020 年 4 月から予定されている) 発電送電の分離を着実に進行。
- ② 国は、オーストリアの「反原発法」で採択しているエネルギー政策を取り入れる。
- ③ 国は、一般人にもわかりやすい各エネルギーの安定供給のモデルケースを例示する。
- ④ 中国電力の株主として「原発以外の対応も推進してほしい」と伝えられる存在になる。
- ⑤ 自分の家に太陽光発電を設置する。さらに周囲に呼び掛ける。

- ⑥ (電化住宅に住む家族なので) 電気以外の熱源もB案として用意しておく。
- ⑦ 我が家の屋根は、全てソーラーシステム。あまった電力は蓄電装置へ。
- ⑧ 代替エネルギーがさらに普及するまで、これまでどおりの発電。代替エネルギーによる持続可能性が確立された後は、原発には引退してもらおう(持続可能な地域を作っていくためには、エネルギーを自給することが不可欠)。
- ⑨ 科学技術の進歩で、リスクの少ない新たなエネルギー源の開発を行う。
- ⑩ 平常時・非常時の安定供給の維持の仕方や、非常時の各電力の停止から復旧までの期間の見通しを公開する。
- ⑪ 家庭用太陽光発電設置に対しての補助金を厚くする。
- ⑫ どんな電力でも不可欠な送電網の建設や維持に必要なことを学ぶ(脱原発を推進しているドイツでは、反対活動により送電網の用地取得や再生可能エネルギーの送電計画に支障が出ているため)。
- ⑬ 国は、原子力産業の輸出応援をセーブする。
- ⑭ 原発が廃炉になるまでは、特化した産業として原子力技術を維持する。
- ⑮ 島根大学が開催するエネルギーの勉強会に今月から参加し始めた。
- ⑯ メディアは中立的な立場で報道する(偏った報道は禁止)。
- ⑰ 情報量が多くなると受け取る側が混乱するケースが多く見られるので、正しい情報を伝える
- ⑱ 市民、行政、民間、それぞれの立場で再生可能エネルギー導入による経済効果を試算する。

提案

- 放射性廃棄物の最終処分場について、情報の出し手（国や電力会社）と受け手（市民）のコミュニケーションを図り、他人事にならないようにする。

原子力政策の最大の問題の一つは、放射性廃棄物の最終処分場が決まっていないことではないか。国の政策によるところが大きい。現在、原発のある松江市民として、他人事にせず、国の動向をチェックする。

「会議としての共通意見」 「提案7」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち市民

- ① もし自分の地域に最終処分場を作ることになったらどうなるか想像し、影響を考える。
- ② 放射性廃棄物の最終処分場について情報を得る努力をする。
- ③ 最終処分場の勉強会を地域の中で実施する。

中国電力

- ① 中国電力の側から市民と対話する場を作る。
- ② 最終処分の技術をもっとわかりやすく説明する。

民間企業、NPO等

- ① 【メディア】 最終処分についての海外の実例をもっと紹介する。
- ② 【メディア】 客観的で多様な情報を伝える。

行政

- ① 【国】 早急に国の政策を明確にする。その際、今回の会議のようにしっかりと国民、住民とコミュニケーションをとる。

提案

- 仮に原発事故が起きた場合の被害シミュレーションや、避難計画・経路の周知を今まで以上に徹底する。私たち市民も知る努力をする。

福島第一原子力発電所事故のようなことが起こらないようにするのは大前提であるが、起きた場合のことも想定しておく必要がある。被害シミュレーションや避難計画の策定、避難経路の確認など、行政、中国電力、市民それぞれができることをしていく。

「会議としての共通意見」 「提案8」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち市民

- ① 避難経路や避難方法を正確に理解しイメージが持てるようにする（シミュレーションする）。自分がどう動くか考えておく。
- ② 避難訓練や市主催の説明会などがあれば積極的に参加する。
- ③ 地域単位で協力して携われることを検討する（実際の避難時に高齢者宅へ行って声掛けをするなど）。
- ④ 避難方法や行き方は、地域によって違うことをそれぞれが理解しておく。

中国電力

- ① 避難訓練が形式的にならないよう、実際に災害が起こったと本気で想像しながら動く。
- ② 推定被害額をもっと発信していき、その重みの理解を深める。また、日頃から補償に備えておく。

民間企業、NPO等

- ① 【メディア】避難経路を協力して周知する。
 - ② 【メディア】行政の算出した推定の被害総額を検証し、もっと市民へ伝える。
- ① 【市・県】絵に描いた餅にならないよう、市民と一緒に現実性、実効性のある避難計画を策定する。

行政

- ② 現在の防災訓練が平日昼間で、仕事があると参加できない人もいる。土日に設定する訓練も設ける。
- ③ 避難後の生活について行政の対策を市民へわかりやすく、具体的に伝える。

「個別の意見」

- ① どの程度まで原発のリスクが受け入れられるかよく考える。
- ② 現在も地域の公民館だよりで避難訓練の開催が呼び掛けられている。
- ③ 市や県が大規模な避難訓練をする際には、知人に声をかけて参加する。
- ④ 自然災害による避難と原発事故による避難の相違点を理解しておかなければならない。
- ⑤ 避難だけでなく、被災後についても補償制度などの勉強をするなど、イメージを持っておく。

提案

9. この会議での私たちの意見と、議会・行政の考えとの共通点や相違点を知るため、市議会を傍聴したり国のエネルギー政策の動向をチェックしたりする。議会・行政は多様な市民の意見を真剣に聴く。

この会議で出されたものは、まさに市民の声だと言える。だが、これらが議会や行政に伝わっているとは思えない。結論（賛成か反対か）だけでなく、市民が様々な視点から考え悩んでいるプロセスも含めて反映されることが大切。市民も、議会や行政に対するチェックを増やさなければならない。また、原発は国の政策が大きい要素なので、その方向性をしっかりとチェックし、この会議の意見を国にも伝える。同時に議会や行政は、この会議のような議論の場を作り多様な市民の声を聴いていく。

「議会としての共通意見」 「提案9」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち市民

- ① 市議会、県議会を傍聴に行き、原発に限らずどのような議論がされているのかをしっかりと把握する。
- ② この会議の様子や提案の内容を議員に伝える。
- ③ 国のエネルギー政策の動向にもっと関心を持つ。
- ④ 自分の意見を反映してくれるであろう議員を選ぶ。また、見解を明確にしない議員には、明らかにするよう求める。

中国電力

民間企業、NPO等

- ① 【メディア】今後のエネルギーのあり方などを特集する。インターネット放送も活用する。

行政

- ① 自分ごと化会議を議員や行政職員が傍聴する。
- ② 住民・国民同士でオープンに話し合える場を作る。そして、その意見を行政が真摯に聴く仕組みを作る。
- ③ 【市・県】国のエネルギー政策がさらに明確になるよう、原発を持つ自治体の責務として、国に意見を言っていく。
- ④ 【市・県】原発のことを中国電力任せにしない。

「個別の意見」

- ① このような問題を同僚、家族に話す時に抵抗を感じてしまうのはなぜだろう。抵抗なく自分の意見を話せるように心がけたいし、そういう社会になってほしい。

□その他の個別の意見

- ① 大家族で話し合っているような良い気分だった。1人だと不安が大きくなり辛い、若い方が、自然に受け入れていると感じた。
- ② 私たち国民は理想を語るができるが、現実をみないと絵空事になってしまう。私達の未来と密接に関わってくる物事だからもっと、自分のことと捉えて、しっかりと考えないといけない。行政はそんな私達の声を実現にするものだから、出たものをしっかりと実現してほしい。
- ③ 誰もが原発を自分ごとに自分の頭で考えていく。これまではやろうと思いついていかなかったが、今回こそは会社内の SNS にアップし、様々な意見に触れる。
- ④ 女性と男性の違いがあり、違うことの良さを感じた。同一に考えてしまうことが問題を作っていることもある。
- ⑤ 安全性への強い不安を完全に払拭することを最優先にして考える。
- ⑥ テロの対策について私達の年齢層（戦争体験に近い者）はよく話題にする。中国電力はそのことを知った上で、安心できるように知らせてほしい。行政はパニックにならないように説明をしてほしい。
- ⑦ エネルギー対策における国と電力会社の役割分担を明確にしていく必要があるのではないか。原子力発電所の管理・運営を電力会社という民間会社のみ任せず、国が責任の主体になるべきではないか。
- ⑧ 松江市は、独自の CO2 削減の目標、再生可能エネルギー普及率の目標を設定する。

自分ごと化会議 in 松江～原発を自分ごと化する～

会議参加者

- 足森 洋子
- 安達 隆信
- 岩町 紀子
- 遠周 睦明
- 金築 謙二
- 古藤 大地
- 後藤 展枝
- 坂本 拓三
- 玉木 紅美子
- 土居 遼祐
- 匿名希望（子育てしながら働く主婦）
- 中村 令
- 早瀬 眞知子
- 原戸 久美子
- 福間 眞貴子
- 船津 涼太
- 本多 宏美
- 三谷 眞美
- 山下 佳奈
- 山田 尚輝

※1 名前の公表に、承諾された方のみ掲載しています。

※2 会議参加者は全体で 26 名。選挙人名簿から無作為に選ばれた 2176 名に会議への参加案内を送付し、応募があった松江市民 21 名と島根大学学生 5 名。

◇ ブログのご紹介◇

会議開催までの様子や各回の報告などをブログで掲載しています。

『「自分ごと化会議in松江」からの9つの提案』の電子データもブログよりダウンロードできます。

是非、ご覧ください。



アメブロ

自分ごと化会議in松江

<https://ameblo.jp/jibungotokakaigi>

お問合せ先

「自分ごと化会議in松江」実行委員会
〒690-0015 松江市上乃木4-20-36 406号
大谷方

事務局（住民目線で政治を変える会・山陰）
Tel. 090-4571-6576（担当：新田）
E-mail. hitomi-nitta@sea.chukai.ne.jp